

能登畠山氏・七尾城跡略年表

年号	(西暦)	主な出来事	領主	拠点
延元3年	(1338)	足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府が成立する。		府中(守護所)
応永15年	(1408)	畠山満慶、畠山家の家督を兄の満家に譲り、満家から能登守護を与えられる。能登畠山家(畠山匠作家)を創設する。	初代満慶	府中守護館
永享4年	(1432)	畠山満慶没し、長男義忠が家督を継ぐ。	二代義忠	
文明10年	(1478)	応仁の乱が終わり、この頃、畠山義統、能登に下向する。	三代義統	
文明15年	(1483)	畠山義統、府中守護館で連歌会を催し、「賦何船連歌」が詠まれる。		
明応6年	(1497)	畠山義統没し、長男義元が家督を継ぐ。	四代義元	
明応9年	(1500)	守護代の遊佐統秀ら、義統の次男慶致を守護に擁立する。義元は越後へ逃れる。(明応の政変)	五代慶致	
文龜3年	(1503)	畠山慶致、父義統の七回忌法要を瑞応山大寧寺で行う。		
永正5年	(1508)	畠山義元、越後から戻り、再び能登守護となる。	六代義元	
永正12年	(1515)	畠山義元没し、慶致の長男義総、能登守護となる。	七代義総	
大永6年	(1526)	畠山義総、七尾城内で歌会を催し、冷泉為広と為和父子、列席するが、同年冷泉為広、七尾で没する。		
大永8年	(1529)	絵師の長谷川等伯(信春)、七尾に生まれる。		
天文14年	(1545)	畠山義総没し、次男義統が家督を継ぐ。	八代義統	
天文19年	(1550)	この頃、能登の内乱(遊佐統光と温井総貞の対立)によって七尾城下が焼失する。		
天文20年	(1551)	この頃、重臣七名からなる「畠山七人衆」が領国支配の実権を握る。温井一党が一向一揆などの支援を得て、七尾城方と対峙する。(弘治の内乱)	九代義綱	
永禄9年	(1566)	重臣らが畠山義綱を追放し、長男義隆を守護に擁立する。	十代義隆	
天正2年	(1574)	畠山義隆、重臣に毒殺され、弟義隆が家督を継ぐ。	十一代義隆	
天正4年	(1576)	越後の上杉謙信、能登へ攻め入り、七尾城を囲む。		
天正5年	(1577)	遊佐・三宅・温井氏らが上杉方に内応し、開城に反対する長氏一族を謀殺する。七尾城が落城し、能登畠山氏が滅亡する。	上杉 上杉謙信	
天正9年	(1581)	織田信長、菅屋長頼を七尾城代とし、温井景隆・三宅長盛が石動山へ逃ぎ、その後越後へ行く。	織田 菅屋長頼	
		前田利家、織田信長より能登一國を与えられる。	前田 前田利家	

史跡七尾城跡

七尾城跡は、能登国の守護・畠山氏が16前期前半に築いた城館跡で、全国屈指の規模を誇る。石動山系の北端、七尾湾を見下ろす要害に築かれた城域は、南北2.5km、東西1.2kmに及ぶ。山上から山麓までの峻険な自然地形を巧みに利用し、七尾の地名の由来となった七つの尾根筋を中心に大小多数の曲輪が連なる。本丸を中心に遊佐屋敷・桜馬場・西の丸・温井屋敷・二の丸・三の丸・調度丸・寺屋敷・長屋敷と称される曲輪群が存在している。主郭部周辺には野面積みの石垣が随所にみられ、堀切や土塁などの遺構の残存が良好である。北陸では最大級の規模を誇り、堅固な構造を有する戦国期を代表する中世城郭である。

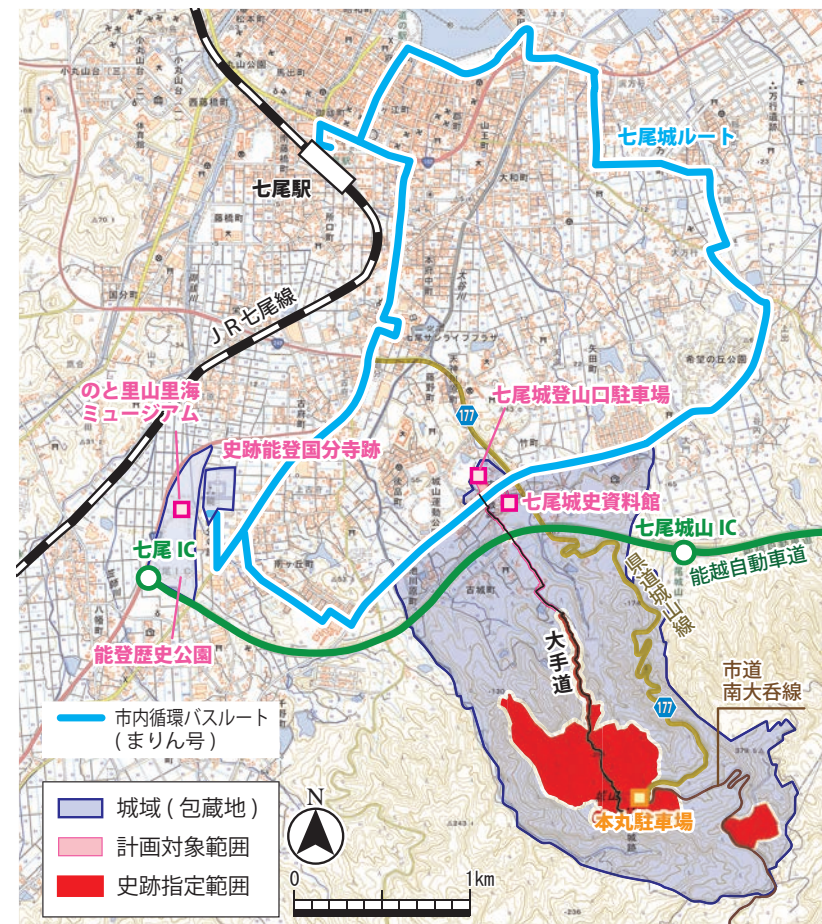
史跡七尾城跡整備基本計画書(概要版)



2021.3
七尾市教育委員会

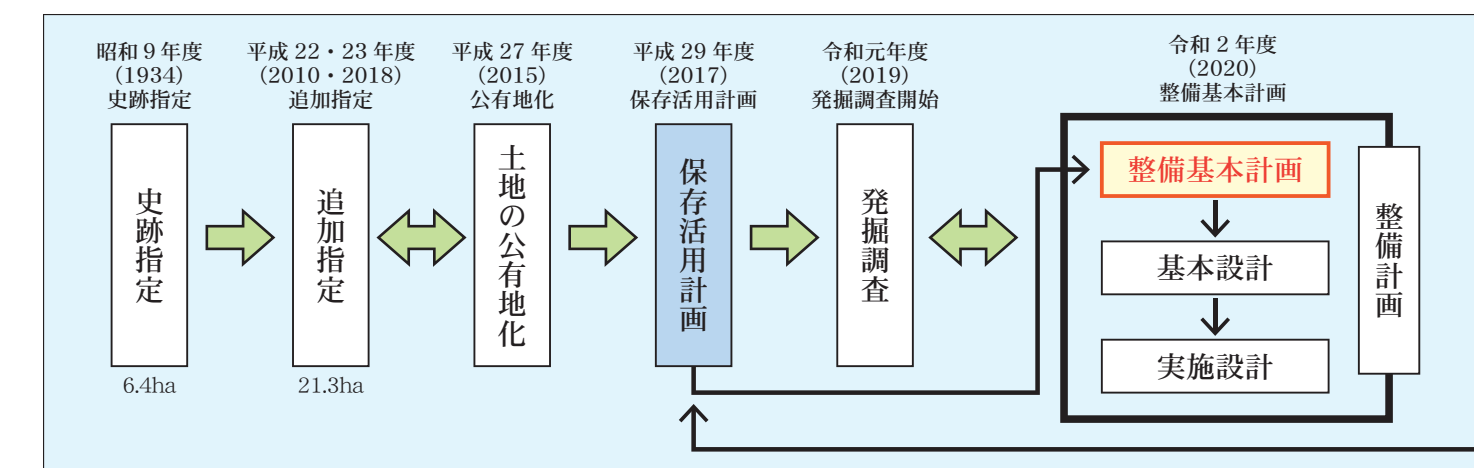


発行：七尾市教育委員会
編集：七尾市スポーツ・文化課
七尾城跡保存活用推進室
〒926-8611
石川県七尾市袖ヶ江町イ番地 25 番地
☎0767-53-8437 / FAX.0767-52-5194
E-mail: sportsbunka@city.nanao.lg.jp
発行日 令和3年3月31日



史跡七尾城跡整備基本計画の概要

1. 経緯と計画



2. 基本理念(史跡七尾城跡の整備が目指す姿)

「七尾」の由来となった戦国時代の城郭
—七尾城跡のスケールと眺望を体感でき、市民が誇りをもてる史跡—

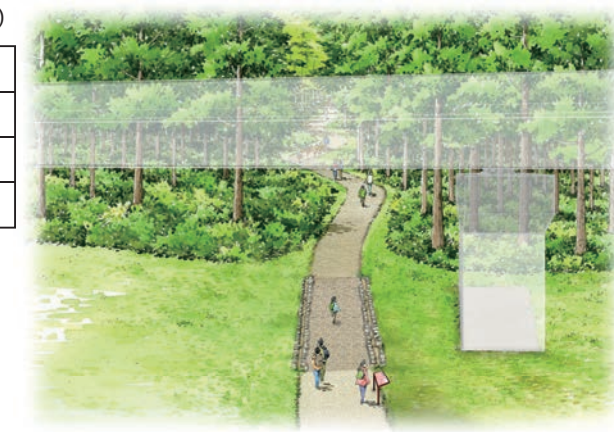
3. 概要

- 対象範囲：30ha(史跡指定地「27.7ha」、七尾城登山口駐車場・七尾城史資料館及び大手道の未指定地)
- 事業期間：令和3年度～12年度の10年間における具体的な整備内容やスケジュールの提示
(本計画の事業期間は前半5年目に事業の評価や進捗状況に応じて、後半の事業を見直す)
- 整備：[保存目的] 竹木の伐採・剪定・地形の復旧(災害復旧も含む)
[活用目的]

スケジュール	内容	実施内容
R3	登山口駐車場	便所・バス停整備
R3～9	各地区	眺望確保(竹木の伐採・剪定)、植生管理による遺構保全と顕在化
R3～12	本丸周辺	発掘調査成果に基づいた遺構復元(本丸西側虎口)と建物復元の検討
R4～7	大手道	能越道高架下の遺構復元、誘導・説明看板、道路面、高層敷北側市有地の仮整備
R4～10	石垣	本丸北側斜面、九尺石などについて、優先順位を設定して条件が整った石垣から復旧
	諸施設	柵やベンチなど活用上必要な諸施設 本丸眺望説明看板の設置、七尾城史資料館の建て替え又は移転の検討
R4～7	本丸駐車場	市道南大呑1号線の活用も視野にした拡幅

○発掘調査：実態解明を目指す(追加指定や史跡整備の基礎資料)

スケジュール	調査対象	目的
R2～3	調度丸 [A-1]	保存目的の調査
R4～5	九尺石 [A-1]	石垣復旧 (R6～)
R6	本丸西側虎口 [A-1]	建物復元 (R10～)
R1, 8～10	大手道 [C区]	大手道の実態解明 (C区)



大手道の整備イメージ(A-9地区：能越道高架下)